

(仮称) 旭川市子ども条例に係る子ども会議の結果について

- 開催日時：平成23年10月30日（日）13：00～16：00
- 場 所：まちなか交流館2階「HI・RO・BA」
- 参加者：旭川市立東光中学校生徒会役員5名，旭川東高校生徒会役員6名，
はしっくす及びMed-Ed10名
スーパーバイザー 旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科 栗田助教
- その他：旭川市子育て支援部 4名，(仮称)旭川市子ども条例検討部会 中島委員，
旭川医科大学健康科学講座 吉田教授 旭川医科大学 加藤研究支援室長
旭川市立東光中学校 青井教諭
- 報道関係：STV，北海道新聞，旭川ケーブルテレビ，電通（市広報誌関係）
- 子ども会議の目的等
 - ・ 中学生，高校生及び大学生に対して，条例の意義等について理解促進を図るとともに，条例推進の仕組み等についての参考とするため実施。
 - ・ 参加者には，異年齢の子ども同士の活動によってできることや大学生が関わることによってさらに期待できる活動の広がりについて，一人一人が気付き，意見交換することの楽しさを感じてもらう。
- 概要
 - ・ 開会
 - ・ 市長挨拶
 - ・ 会議の目的，進め方等の説明
 - 「子どもが元気なまち」をテーマに，中学生・高校生・大学生混合チーム（3つ）と大学生チーム（1つ）を設置し，混合チームでは，「自分たち（子ども）の夢や希望を実現するためにできること」，大学生チームでは，「子どもの夢や希望を実現するために大学生ができること」をテーマとして，グループワーキングを行う。
 - ・ グループワーキング
 - 各自で思いついたことを付箋紙に記入し，模造紙に配置しながら，全体のストーリーを整理していく。
 - ・ 全体会議
 - ・ 閉会

● 会議の進め方について、栗田スーパーバイザーから説明



●グループごとに、それぞれの将来の夢や希望などを含めながら自己紹介



●自己紹介（中学生・高校生・大学生混合チーム）



●テーマに沿って意見交換（中学生・高校生・大学生混合チーム）



●意見交換, 思いついたことを付箋紙に記入 (中学生・高校生・大学生混合チーム)



●意見交換終了後, 早速, 付箋紙記入に専念 (大学生チーム)



●各チームごとに発表（発表者は中学生）



●発表の前にチームのメンバーを紹介



- 混合チームについては、同じテーマでグループワーキングを行っていますが、模造紙のレイアウトや整理の仕方も様々です。



- 説明後、参加者からの質問に対しても対応していきます



- 最後に、大学生チームから発表。子ども会議の拡大など具体的な提案が盛り込まれています。



- 各チームから発表後、栗田スーパーバイザーから、講評



○ 栗田スーパーバイザーからの講評

- ・ 各チームがまとめたものをキーワードで整理すると、「地域・きっかけづくり」、「人との関わり」、「職場体験・つながり」、「つながりが、きっかけを育む」であり、全てに共通することは「交流」。

旭川市の18歳未満の人口は約5万人、大学生は約3,500人おり、小学生を含め子どもと大学生が交流し、ともに取り組むことによってできることが、たくさんある。

- ・ とともに取り組んでいく上で大切なことは、特に、子ども世代を牽引する中高生が自分の将来をイメージし、広く情報発信をしていくことであり、市には、子どもの成長段階ごとに、自分の夢がイメージできる、きっかけづくりをお願いしたい。

○ 今後の進め方について

- ・ 各チームごとに整理したものを集約する作業が未了であるため、今年度中に、再度開催する。